

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171700103		
法人名	有限会社 めぐみ介護サービス		
事業所名	グループホームめぐみ		
所在地	岐阜県恵那市長島町中野1205番地の72		
自己評価作成日	平成21年8月4日	評価結果市町村受理日	平成21年12月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171700103&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人となつた会の会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成21年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

代表者は、介護職の経験があり、グループホームへの思いは深く、利用者様が楽しく喜んで頂けることに情熱を込めてケアにあたっています。設立当時から大切にしているキャッチフレーズ(花・歌・笑い)で、職員も熱意を持って明るく楽しく利用者様に接しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員は、入居者が地域社会の中で地域の一員としての役割(道路清掃や神社清掃当番)と一緒に担い、行事食(おはぎ、赤飯、寿司)のおすそ分け等、地域との関係継続を支援している。職員が意見を出し合い、アイデアをケアプランに活かし、周辺症状の緩和に設立して信頼関係を築いている。福祉団体主催のカラオケ大会に何ヶ月もの練習を経て、職員・入居者が全員参加し、当日は楽屋に家族が花束を持参して祝う等、家族も巻き込んで、喜び、生きがいを共感する機会を作っている。事業所は、各居室ごとに違う家具や、調度品等入居者の年齢に合わせて部屋造りを行い、安心して生活できるように支援している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「共豊」である。職員は、その理念を共有しその人らしい生活の実現の為、実践につなげるよう心掛けている。	地域とつながりを持ち、共に心豊かに生活してゆく事を理念とし、常に心がけている。職員は、入居者がこのホームに来て良かったと思ってもらう事が喜びになるとの思いを持ち、毎日のケアの中で理念を実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の行事(公民館での絵画等の展覧会の見学)、神事、防火訓練等にも出来るだけ参加する。回覧板等は、隣近所の家のお小さなお様が届けて下さる。	行事食(入居者の誕生日の赤飯や、おすし、おはぎ)をおすそ分けし近所付き合いをしている。また、ゴミ出しのお手伝いや、道路の掃除、神社の掃除当番など、地域の一員としての役割を担っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	体調を崩された独居老人の生活(安否確認やゴミ出し)に少しでもお役にたつよう負担にならない程度の支援をしている。回覧板等も代理で回すこともある。声掛け等もやっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者からの積極的な意見(改善点等)を聞き入れ、可能な事柄で、あれば実行している。	運営推進会議で口腔ケアの説明や、ホーム行事などを伝えている。事業所からの報告は多いが、出席者からの積極的意見交換の場面が少ない。	事業所からの報告にとどまらず、出席者からの意見を出しやすいよう議題や内容に工夫をし、活発な意見交換を行い、それをサービス向上に活かしてほしい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	『認知症患者を抱える家族の会』の窓口になっている。行政関係者とのコミュニケーションを取っている。地域包括主催の研修に参加し現場業務に結びつけている。(口腔ケア等)	市町村と、いろいろの保障制度などを相談し、今後の対応について意見をもらっている。又、スプリンクラーの設置・制度についてお互いに連絡しあっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむおう得ない状況を除き、身体拘束をしないケアの理解と実践について職員で話し合い、1人1人の利用者が抱えている根本的な不安や混乱等の要因を取り除くケアに努めている。	身体拘束をしないケアについて全員で取り組んでいる。家族がたなぎ服が必要と思ひ用意した入居者に対して、楽しみや、いろいろな事に興味を持ってもらう等のケアにより、早期に改善され、現在に至っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講演等の研修会があれば、積極的に参加している。職員1人1人が認識を持ちながら行動するよう職員会議等をもって定着するよう努めている。		

グループホーム めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講演等の研修会があれば、積極的に参加している。必要性は、関係者で話し合いを必要とする人には、活用できるよう支援する。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安や疑問点は、遠慮する事無く伝えて貰えるよう心掛ける。(疑問点は、聞いて頂く。)また十分な説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームの玄関には意見箱、苦情受付のポスターなどを貼りいつでも聞き入る事が、できるようにオープンにしている。又その意見を参考にして役立っている。	家族の面会時、心安く話しやすい雰囲気心がけ、意見を聞いている。職員は、家族等へ便りや電話をして意見を聞き、行事(誕生日プレゼント会等)を企画し利用者の要望を活かしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案の反映は、行われている。	代表者や管理者は月に2回、18時30分より全職員参加のミーティングを開き、意見を聞いている。個別にも、話しやすい雰囲気を心がけながら意見を聞き、運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	勤務表の把握や職員との個人面談等も行い理解している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、積極的に参加し情報の共有、資料の指導、助言等は、管理者が対応し職員も自発的に勉強している。代表者も職員の育成に取り組み適切な管理、助言を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の支部会や介護相談員の説明会、勉強会、研修等に参加している。(レクリエーション等の話も聞いて刺激を受け参考にもしている。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人だけに面談を行い出来るだけ話をして頂くようにしている。(自室等、話しやすい場所)常に声掛け等をしながら安心して頂けるよう配慮している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や必要等が、あって家族に電話をした際、話を受け止めるように努力している。(話しやすい雰囲気を作っている。)		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サマリー・健康診断書等により必要と思われる事を示させて頂き対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩であると言う敬意を持ち接しさせて頂いている。又、昔の話を聞いたりして(生活習慣等)して、学ばせてもらい支えあう関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な変化も電話連絡し又、面会に来て頂くように心掛けている。又、来所時には話をするなどしてよりよい関係作りに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の気持ちを尊重して、なるべく実現(面会の約束)出来るように馴染みの人との関係が続くよう声掛け等にてつないで行く努力をしている。	年賀状や手紙を友人に出し、職員も認知症への理解を伝えている。又、社会福祉協議会主催のカラオケ大会出場を家族に伝え、当日楽屋に家族が花束を持ってお祝いに来てくれるような関係作りを行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーション等、一緒の時間を共有できるのでお互いが、コミュニケーションが取れるよう努めている。		

グループホーム めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	先方の必要とする限り、そうさせて頂いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を大切に出来る限り、希望や意向にそえるよう努めている。	意思の把握困難な人には、声かけを多くし、歌声や、花を見せ、その時の表情の変化で思いを捕らえている。日頃から話しかけを多くし、話しやすい雰囲気を作り、本人の希望を聞くように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時やその後も(外泊した際)馴染みの物を持って来て頂くようにしている。家族からも情報を得よう努めている、		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員日誌・業務終了日誌・バイタルチェック表・夜勤日誌・水分摂取表等を元に全職員が現状を把握するように努めている。又、それを計画書に反映するようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・必要な関係者と話し合い、表現・アイデアを出して、それを元に介護計画を作成している。	センター方式の用紙に在宅時での様子を記入してもらい、職員、家族には意見を聞き本人とも話し合っている。スリッパの置く位置を図で示す、ポータブルトイレに便所と書いて貼る等、職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員日誌・業務終了日誌・夜勤日誌・水分摂取表・清潔表・申し送りノートにて共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人のニーズに対して直ぐに対応できるように柔軟性を持って臨機応変に支援して行くように努めている。		

グループホーム めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	シルバーカラオケ大会の出場をしたり、ボランティアの来訪・防火訓練・絵画・版画・花等の展示会の見学・大正琴の生演奏の鑑賞もする。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、往診を受けている。往診時もかかりつけ医に相談を行っている。又、随時の診察も受けられるよう支援している。	医師の往診結果を、介護記録と連絡ノートに記入して職員全員が情報を共有している。かかりつけ医受診時や退院時は、指示書や家族からの情報を、協力医へ細かく報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々、変化していく体調管理の情報や気づきを職員間で共有し協力医療機関の看護師への相談を経て主治医の受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、家族と話し合い、入院期間は職員が面会し洗濯物を預かり必要である物を補充する。代表管理者と職員が医療機関と連携を図っていく。退院は医師の指示で決定する。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的には、重度化や終末期は病院での医療を受けるように決めている。しかしながら、終末期に至るまでホームの支援を受けられるのが現状である。	重度化した時や終末期には病院での医療を受けることを基本としている事を入居時に説明している。家族や本人の気持ちを大切に、看れる限りは見ていきたいとの思いで、吸引器の取り扱い等研修を重ねている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いつどんな時でも急変や事故発生時に備えて全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。(AEDの設置と説明)結果、円滑に対応が、できている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策に備えて定期的な避難消防訓練やマニュアルによる講習を行っている。	地域一斉の防災訓練に参加し、定期的に避難消防訓練をしている。廊下には避難経路が赤いテープで示され避難誘導の為の工夫をしている。夜間を想定した避難訓練はまだ実施されていない。	地域との協力体制のもと夜間(夜間を想定して)の避難訓練されることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時・排泄時は特に気を付けている。電話の取次ぎ、ファックス送信後、受診後もプライバシーの侵害のないように気を付けている。	入室時のノックや失禁時の声かけ等、職員全員が、実践している。トイレは1室に便器が並列2器有り、容易に隣が解る状態である。又、居室の入り口戸の上部が透明ガラスで、中を見渡す事ができる。	建物のハード面、安全第一の観点から現在の造りになっているが、人格の尊重、プライバシー確保の点から、一度、皆で考えてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも自由に本人が思いや希望を表したり、自己決定出来るように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の状況を把握しながら、1人1人のペースを大切に優先している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば本人の好みもあるので、気に入った(馴染みのある)理容・美容院を選んで、望む店にいけるように努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に好物のアンケートを取り献立作りに役立てている。その人の能力・体調に合わせて準備や後片付けをして頂いている。食事中の会話を楽しんでいる。	買い物、準備、後かたづけ等、力に応じ共に行っている。好き嫌い表を貼り、好みの物やミキサーやきざみ食への変更をしている。ミキサー食においては、視覚や触覚の楽しみを支援する為、食卓上でスプーンでつぶしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病で糖分の摂取を考えなくてはいけない方もみえるので食事量を調節している。(配膳時)		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日最低2回は、歯磨きを行うようにしている。自分で出来ない方は、ケア用のスポンジ付きスティックや歯磨きティッシュを使用している。		

グループホーム めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	脳に刺激が、増すように少しでも運動して貰うように声掛けをしている。排泄用品は身体状況に合わせてその都度、対応している。排泄パターンを知るためのチェック表を使用している。	個別に相談して紙パンツからリハビリパンツへ移行し、排泄チェック表により誘導時間を決めトイレ排泄支援をしている。夜間はオムツ利用を避け、安全の為自室のポータブルトイレを利用し、自立への支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で食物繊維は、豊富に摂取している。1日に適度な運動をして貰うように声掛けをしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の勤務時間帯の中で入浴して頂いている。	毎日、午後からいつでも入浴可能である。その時に沢山の対話が出来、思いがけない発見もあり、入居者の理解につなげている。拒否がちな人には、往診がある等と説明し入浴を促している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、昼寝等で休息して頂いている。夜間の睡眠パターンは、夜勤者より引継ぎがある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬における変化は、直ぐに気が付くようにしている。通じ薬等は、排便リズムをみて調整している。何人もの職員で投薬に至るまで確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人にあった役割(作業)、楽しみごと等を考えている。その人にあった趣味(生活歴の中で)を生かして楽しんで貰えるよう工夫している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候をみながら買い物同行、近隣への散歩、花や畑の手入れ等をして頂いている。	天気の良い日は、畑の小道を散歩したり、買い物に出かけている。地域の夏祭りや、花火大会、他のホームとの交流会等に参加している。特に楽しみにしているカラオケ大会には、何ヶ月も歌の練習をして全員で(職員も)出場している。	

グループホーム めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が、お金の管理をして見える以上は、グループホームとしては、管理の限界が、ありますが管理能力のある利用者に応じては所持して貰っている。(外出時の食事代等)金銭については入居時、家族と話し合いがされている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	なるべく自由に手紙や電話のやり取りをして貰っているが、手紙等は、一気に集中して何枚も書く利用者もみえるので、その方には、自分で加減して書くように声掛けをしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家の空間を生かしている。玄関からの眩しい光が入る場合は、居間の戸を閉めたり自室に眩しい光が入る場合も夏季は、よらずでさえぎる。	居間には伝言板があり、台所に火の神のお札を貼り、窓にはよしずを掛け生活感の工夫がある。床にスリッパ型の名前入り目印を作り、混乱を招かないようにしている。コーナーや玄関に花をいけ季節感が感じられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・台所・事務所等居心地の良い場所で過ごして貰う。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を、使用して頂いている。レクリエーションで、手作りした物等を自室の壁に飾る。	各室、入居者の年齢に合わせ、皆違った家具やベッド、小物入れ等を事業所側で用意している。家族の写真、人形、杖、手鏡等馴染みの物がある。怪我をしないよう、ベッドの支柱にはカバーをする等工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人のわかる力を、なるべく生かして利用者に対する言葉掛けには十分に注意し、安心して自立しながら暮らせるように工夫している。		